

令和5年度第1回佐伯市総合教育会議議事要旨

- 1 日 時 令和5年9月25日（月）14時～15時45分
- 2 場 所 佐伯市役所本庁舎6階 大会議室
- 3 出席者 (会議の構成員)
- 佐伯市長 田中 利明 教育長 宗岡 功
教育委員 平井 國政 教育委員 小寺 香里
教育委員 藤崎 郁
- ※山口 清一郎教育委員は欠席
- (教育委員会)
- 教育部長 久々宮 克也
- (事務局)
- 総合政策部長 植田 実 政策企画課長 末永 健二
総括主幹 田村 英朝 副主幹 出納 達哉

4 要 旨

次第1 市長あいさつ	
市長	<p>(開始 14時)</p> <p>総合教育会議は平成27年度から始まり、年に一度実施していたが、平成29年の市長就任以来、教育委員をはじめ、教育委員会執行部と市長部局との間で、教育問題について広いテーマで協議したいということで、今回で15回目である。</p> <p>本市の第2次佐伯市総合計画は、平成30年度に策定され、令和9年度までの10年間の計画であり、本年度から後期基本計画というなかでさいきオーガニックシティを掲げ、人と自然にやさしい持続可能な循環型共生社会の形成を目指している。さらにはシェアリング・デジタル・グリーン の視点で新しいまちづくりを行っているが、その中心は人材育成であり、教育による成果が大きい。本市でも市内小中学校に対し5,000台のタブレット端末を整備して、GIGAスクール構想の推進を行っている。</p> <p>本日は、具体的な小・中学校のDX教育の推進について成果や現状を報告してもらい、さらに行政のDX化という中で、本市と包括連携協定を締結している、株式会社飴肥社中共同代表である前日南市長の崎田氏をはじめ、皆さん</p>

	からこれからのDXに対する推進や展望を含めた説明をしていただく。皆さんの忌憚のない意見や発言をお願いしたい。
次第2 協議事項	
柳井学校教育課長	<「市内小・中学校の教育DXの取組」について説明>
崎田氏	<「デジタルとDXの違い～教育DXがもたらす教育現場への影響・利点等」について説明>
市長	学校教育課長と崎田氏から説明を受けたので、委員の皆様から質問や意見があればお願いしたい。
教育長	本市でもプログラム力を子どもにつけようということで授業を行っているが、先ほど崎田氏から説明があったように、教師の力をどうつけるかというところで研修会を開催しているが苦慮している。 プログラミングも小・中学校段階で身につける力として、例えばホームページを作成する場合には、そのホームページを作るアプリというものがもうすでにできていて、それを使っていけばホームページが簡単にできるが、そこを目指すのではなく、そのアプリを作るための能力を早い段階から作っていくという捉えでいいのか。
崎田氏	今は組み合わせでパズルのように組み合わせれば判別できる教材があるが、プログラミング教育の本質ではない。逆にそういったものを使うと、教える方も楽だが危険だと思う。テキストコーディングのようにゼロから作る力みたいなこと、楽に見えて実はプログラムの本質を教えていない教材があるので本質的なところを学習させる必要がある。
平井委員	プログラミングの話を知っていると、教える先生方がかなりその技術を身につけないといけないと感じた。あくまで子どもが受け身で、結局教える先生方が一番重要になってくると感じた。先生方にそういう専門の研修をしないといけないのか。
崎田氏	専門の研修を教育委員会でも開催していると思ういろいろな機会はあると思う。 先生が子どもたち一人ひとりのパソコンを覗きながら同時進行は無理。

	<p>先生は全体を統括しながらついていけない子どもに時間を費やせるとか、個別でできることはもうどんどん IT にさせながら、先生はそれについていけない人たちにもっと手厚くやる。全体の授業を作るという教材を作ることで、逆に先生の負担を軽減したほうがいいと思っている。先生がやりたいことをどうやって個別最適で実現していくか。</p>
小寺委員	<p>先ほど生徒の動画で生徒が個別に学習していて、ねこのキャラクターが多分AIというかその子に応じた到達度に合わせたサポートが入っていた。その中で教師の動きとか、導入の辺りとかもし映像等があれば想像がつくのかと思った。</p>
崎田氏	<p>あとで詳細な動画を示したいが、通信の関係上スムーズな動きではなかったがイメージはできたと思う。</p>
小寺委員	<p>最近、情報の資格を取ったという先生を2人知っているが、県内でも情報の授業を教えられる指導者が少ない。大学受験に向けての一つネックだと感じる。時間もなければ指導の前例を見たことがないので、できればそのような情報の授業を先進的にしている地域の動画とかを現場の先生方が見られるといいと思った。</p> <p>また、不登校児に対応する学校が4月にオープンするが、大分県では初になる。そこに通えば単位も取れると先日伺ったが、その先生がやはり情報を通信教育で受けて、自分で情報の技術を得たという代表の方だった。数学と理科と情報ということで、3教科資格を得たということで、今後機会があれば先生方も忙しいと思うが、こういうことに触れていけると判りやすいと思った。</p>
藤崎氏	<p>情報という科目だけの話なのか、それとも教育DXの取り組みは科目だけでなく色々な活動に情報の最先端というか色々なものを取り込んで、そういうスキルをベースに色々な学びや共有をしていくのが取り組みなのか。両方あるかもしれないが教えていただきたい。</p>
崎田氏	<p>本当の意味での教育DX、タブレットの有効活用という観点のところ、勉強ができる子を伸ばすことができる可能性があるのもタブレットだと思う。難しい問題にどんどんバージョンアップすることもできるし、得意科目も子供によって違うなかで先生が個別に対応できるようになってくるのがこのタブレットなので、そこにしっかり対応できる仕組みが教育DXだと</p>

	<p>思う。DXの言葉のそもそもの意味、そのIT化は単純に紙とかFAXがメールとかワードになるのがIT化だが、仕組み自体が一体となって便利になるところまでやるのがDXなので、そこまでの仕組みをどう学校現場に取り入れられるかと思っている。どんなに素晴らしい教材でも単純にやれと言われただけではやらない。モチベーションのところで、子どもたちのやる気を引き出すとかコーチングしていく、寄り添っていくということは人間にしかできないことだし、子どもが達成感を感じられると思う。そういった仕組みがつかれることが教育DXだと思っている。</p>
藤崎委員	<p>二つ質問がある。</p> <p>一つは、例えば情報を扱うというすごく倫理的な問題をはらんでいると思うが、情報のリテラシーのなかで、倫理的な問題に関するリテラシーをどこでどういうふうに教えていくのか。やはり簡単にコピーができてしまう。そして、誰々がどういうふうなレベルで発信したか分からないものを自分のところに取り入れて、その審議とかそういうものに対しての責任という部分。私じゃないあそこに貼っていたからってというような感じの、ちょっと無責任さってというのがどうしても手軽なものになってしまうのではないかと。その辺はどういうふうに教えるのか。</p>
崎田氏	<p>現代人が生きていく中でのリテラシーをそもそもどう作っていくかだと思う。それはネットでだけではなくロコミも含めて、情報の確からしさを判断できる子供たちを作っていくというすごく根本的な問題だと思っている。ChatGPT、生成AIという分野ができて、読書感想文は生成させれば簡単にできるような時代になってくる。人間がこれからやるのは問いを作る力だと思う。どこに課題があるのか問いを作る力があれば、ここが的確じゃないとそもそも問題解決に繋がっていかないと思う。リテラシーは様々な場面で教えていかないといけないことだと思うし、ITのシステムだけで覚えられることじゃなくて、情報を取捨選択する力を身につけることと、学校現場では問いを立てる力みたいなことがこれから大事になってくると思っている。</p>
藤崎委員	<p>もう一点は、大きな学ぶべきテーマがあって、そのことについて小出し、問をしてアンサー、問いをしてアンサーと1個ずつ変えていけば、100点満点であなたは80点取れますねというのはすごくわかりやすいが、学問はそういうものだけじゃなくて、例えばひとつの文学作品を読み込んで読み込んで人は理解を深めるが、そういうものに対する情報というもの</p>

	<p>の得意不得意もあるかもしれないが、大事にしなければいけないものが、こっちはばかりクローズアップされると抜け落ちてしまうのではという危惧があるがその辺はいかがか。</p>
<p>崎田氏</p>	<p>バランス力をどう付けるかということ。課題が何なのかということ。今はもう包み隠せない時代になったので何が大事なのか、何がポイントだったのかをどう教えられるかということ。これも簡単じゃないと思う。1個1個の事例からやっていくしかないと思う。みんな自分は正しいと思いがちなので、そこをどうバランスとるかを教えていくことだと思う。</p> <p>情報は一過性で、生成AIが台頭したらプログラムを作る必要はない。むしろ、プログラミングに何を解かせるか、どんなプログラムを作るかが大事。</p>
<p>植田総合政策部長</p>	<p>プログラミング教材について紹介を受けたが、本市もプログラミング教育は当然していると思うが、佐伯のレベルがどういうレベルなのか。受験に太刀打ちできないようなレベルなのかを教えていただきたい。また、臼杵市と豊後大野市は教材を取り入れているということだが、そういった教材が本市で必要なのかも併せて教えていただきたい。</p>
<p>柳井学校教育課長</p>	<p>現在、主に小学校の教科、特に算数と理科でプログラミング教育については、教育委員会でも研修を開催しながら、どの学校でもすぐに持ち帰ってできるような形で進めているところである。中学校については技術科教員が極めて少ない状況だが、実践を他の学校に広げていこうといったところで考えている。プログラミング教材に関しては非常に丁寧な教材を作ってどの学校でもできる形にはしている。また、算数や理科だけでなく他教科でも広げていこうという取組は小学校の中でも広がっているところである。</p>
<p>久々宮教育部長</p>	<p>総合教育会議ということで市のトップの会議であるという部分を含め、私としては国や文部科学省へ強く要望すべきと感じている。新たな教科として情報が加わるというなかで、教育現場は教える教科が増えるだけで、逆に何かの教科を減らすというマイナスの部分が見えないと、現場での負担が非常に大きいと感じる。ただDXの分野が世界中に見て日本が進んでいないという部分を含めると、プラスマイナスで考えていかないと。現場の声を聞くと小学校に英語が入ってきた、プログラミング教育が入ってきたよと。</p>

	<p>大学受験が難しくなればなるほど、今の子どもってもう大学受験の段階で疲弊してしまって、本来は大学受験改革じゃなくて大学改革をして、大学の中で何を学んで社会に出ていくのかという部分の根本的なことを見直さないと、みんなが大きい声を上げていかないといけない。子どもが子どもである時間を大人が奪っているっていうふうを感じる。その辺の部分は、やはりみんなで声を大きく上げて、学校現場をもうちょっとスムーズな形でする、もしくは人をふやせないのであれば、国が予算をつけてでも専門の IT 指導員をつける等の政策をやらないと。</p> <p>これまで通り学校現場任せにしまうと、おそらくまた差が出てくるっていう危惧を非常に感じているので、その辺のフォローがあればまた進んでいくとは思う。</p>
<p>崎田氏</p>	<p>単に現場だけに下ろすというところの部分については、非常に危惧している。先ほど DST (一般社団法人 Data for Social Transformation) の話をしたが、発起人のメンバーにデジタル庁教育部門のトップで慶応義塾大学の中室教授も居るので、今日の意見を東京へ行った際にお伝えしたい。現場の負担をどう減らすかということも大事だと思う。極論を言うが、先生は教えるというところから、もう解き放つ手もあるのかなと感じる。素晴らしい教え方の先生のビデオをうまく活用する方法もある。標準的な授業を流してタブレットで見直すようにして、そこについていけない子を隣で先生が指導するなどの思い切ったことをしないと、結局何も手放せない。全部先生が大事だと言いつつ続けたら、先生の仕事は減らないので、そのくらいの何かを手放して、生身の人間でしかできないことをちゃんと人間がやるっていうことが、科目を捨てるというよりも、やっぱり業務の中で捨てられるものは捨てる、かつ DX 化できて置き換えられるということがすぐにはならないと思うが、それができるかできないかは大きいのではないかなと思う。</p>
<p>市長</p>	<p>今日の会議は大変新しい課題だと同時に難しいという印象を持つが、説明を聞くと本当に取っつきやすいと感じた。教育の手段として、DX を有効活用すれば生徒の学習能力の向上や先生の仕事の負担を軽減し得るといふ、こういう本来の人間の教育の本質に迫るような課題が解き明かされ、新しい分野の道具だなというふう感じられた。</p> <p>制服の問題を日南市で取り上げられた時に、やっと本市も来年から選択で制服を選べると。少し遅れたが DX 化の問題についても、先生がプログラミングできないからと言って、自分を責めるのではなくて、どんどん子</p>

どもたちの身に任せてやっていくと、一人一台整備したタブレット端末を活用せずに文鎮になっている課題というのが今全国にあり、活用せず倉庫の中に眠って埃をかぶっているのではというふうな心配をしていたが、それは佐伯市ではないということで、第一段階をクリアしたなど。あとはプログラミングというなかで、システム教育と言うかロボットを動かして感動を受けてもっと進んでいくとか。

或いはこれから台湾やベトナムの中学校等と交流を行っていくが、タブレットを使ってどんどん交流ができると。

ただ課題としては、子どもたちがのめり込んで目が悪くなったり、本を読まなくなるとか、日本語が判らなくなるようなそういう事態は困るなど思っている。タブレットをいい方向に使える素晴らしい教育機器として活用できると感じた。

これからはプログラミングというソフトの問題が我々にとって大きな課題なので、皆さん方の力を借りながら小中高一貫して教育のレベルを上げていくことが大事だと思う。大学の受験対策ではなく、一生の道具として使えたら豊かな人生が送れると思う。明るい未来を作っていくそういう道具だということを含め、タブレットを使った喜びの世界がどんどんソフトの分野で生み出されていくように尽力願いたい。

今後もこういうテーマを設けながら、本市の教育行政の課題についての的確に把握していきたいと思っている。課題問題があっても当然、問題があるから解決しようという意気込みが大事だし、人生をどう豊かにするか、人材育成が教育の根本である。

以上で、令和5年度第1回総合教育会議を終了します。

(終了 15時45分)